

北部事業予定地視察後の意見交換会における質疑概要

(平成24年11月20日実施)

項目	委員	区分	質問・意見の概要	事業者側の回答の概要
埋立地の構造について	東條委員	質問	・山本の埋め立て地と異なり、(地下水位が高いので内部貯留させないため)完全に地盤より上に埋立地を作るのか？	・山本処理場では不等沈下をさけるため、サンドマットを敷いたが、構造基準も強化されたことから、北部では、まず載荷盛土(プレロード)により十分に沈下させたうえで、土を GL ライン上までとって埋立地を作る。したがって、掘り下げることはしない。
			・浸出水の集排水管の出口は、ピットでなく大気解放しているのか？	・詳細設計はこれからだが、既存施設と同じように勾配の低い方に集水マンホールを設置し、ポンプアップして排水処理施設へ送る。極力、埋立地内部で滞水させないように、途中の浸出水調整池で降水量の調整を行う計画としたい。
		意見	・国内の埋立地で、準好気性としていても、そうっていないものがたくさんある。準好気性にすれば、原水の質も大きく悪化せず、ガス濃度も下がるので、是非、それを意識した施設を作ってほしい。	(発言なし)
工事中・供用後の騒音・振動について	佐藤会長	意見	・工事中及び供用後の車両と重機による影響について、見落としのない丹念な評価をしてほしい。	(発言なし)
緩衝帯について	宮木委員	質問	・緩衝帯の50mはそのまま(現状のまま)なのか？	・事業を進めるうえで多少の改変が出てくる可能性はあるが、極力残す方向で考えている。 ・緩衝帯は、敷地境界へ騒音、振動、地盤の変異による影響を及ぼさないためのものである。緩衝帯のなかに管理用道路や汚水(浸出水)圧送管を設置するが、自然環境を残すための改変しない部分も確保したい。
ミクリの移植について	宮木委員	質問	・(事業による)水位変化が考えられるが、移植時の配慮はするのか？	・既存の排水路の中で同じ環境にあるものを活用して、代償池として整備していきたい。
オオタカについて	宮木委員	質問	・平成23,24年に営巣があったところは改変するということか？	・営巣場所については、可能な限り改変しないで残すような設計をしたい。 ・造成時に巣があれば、回避するような設計を検討したい。(ブロックの形は変更が可能。鳥がいなくなった後に拡張も可能。)

	西川 委員	意見	・平成 20 年から連続して営巣している、この場所が採餌・営巣場所として気に入っていると思う。改変により鳥がいなくなるという予想したほうがよい。 ・改変されても、近くに住むことができる場所があれば、営巣木にこだわる必要はないが、他に適地があるかどうか心配である。	(発言なし)
	佐 藤 会長	質問	・(事業用地) 周辺の調査はどうなっているか？	・石狩平野部の巣間距離は 4 ～ 5 km。当別にいるペアまで 7 km 離れている。事業予定地周辺 5 km 以内には営巣可能な場所はある。
事後調査について	遠井 委員	質問	・事後調査は代償措置と関連付けて設定したのか？ ・事後調査の期間は決まっているのか？決まっているならいつの方法書段階で決めたのか？決まっていなかったら開始後に追加の余地もあるのか？ ・あらかじめ回数を決めているのか？	・事業が始まるまでには結構な時間がある、その間に詳細を検討していく。 ・(現時点では) 事後調査の詳細(具体的プラン)までは決めていない。必要に応じてということである。
戦略アセスが対象だったと仮定した場合の代替案について	遠井 委員	質問	・この事業計画が固まるまでに、代替案を検討する余地があったとしたらどのような案がどの時点であったのか？	・現在の事業予定地を決めるに際し、市内で 10 か所くらいの候補地を選定し、比較した。(インフラ状況、買収可能か) ・現在の事業予定地と比較して同等の場所はなかった。 ・この事業予定地にした大きな理由は、水道局の所有地があったこと。その面積と合わせて周囲の現況有姿分譲地を含めて、規模を計画した。 ・平成 8 年ぐらいにこの事業予定地に絞り込んだ。

※意見交換会後に追加送付のあった質問・意見等

項目	委員	区分	質問・意見の概要	事業者側の回答の概要
ヒザグロナ キイナゴに ついて (11月29日)	堀 専門 委員	質問	・調査会社から標本の提出は可能か？	・標本の提出は可能。
		意見	・今まで、道内では道東での記録しか見たことのない種なので、事業予定地に生息していたら、かなり貴重な生息地だと思われる。	・調査範囲が限られているため、当該地域に限定して生息しているものかは不明。なお、図鑑（「バツタ・コオロギ・キリギリス大図鑑（日本直翅類学会編）」（北海道大学出版会）によると道内に生息しているところがある。
表層水の水 質について (11月30日)	山本 委員	質問	・p 7-5-23 下から2行目で、「S-1の水質が福移湿原の浅層地下水型が影響した」とあるが、一方で地下水の流向予測（p 7-6-17）では、福移湿原の地下水は地形に沿った形で北西方向となっている。これらの二つの結果の関連は？ （表層水も地形に沿って流れるかと思えますので、湿原から2方向の流れがあるということか？）	・福移湿原内の地下水位観測データ、測量結果（地下水位観測孔の地表面標高）より、湿原内では北西方向に流下していると考えられる。一方、周辺排水路の流向流速調査結果（準備書 p7-5-18）では湿原西側の排水路が南方へ流下している。福移湿原から南東方向にかけて周辺より標高の高い微高地が存在していることから湿原の南側では、北→南の表層水・地下水の流れがあると考えられる。
地下水位に ついて (11月30日)		質問	・プレロードによる地下水位の変化は無いものと考えてよいか？	・プレロード箇所近傍の浅部地下水については、軽微な変化はあると考えているが、その範囲は限定的であり周辺にまで広く及ぶものではないと考えている。
オオタカの 営巣木につ いて (11月30日)	早矢仕 委員	意見	・平成23・24年度の営巣木がともに伐採される予定であることがたいへん残念だ。 ・事業予定地の中では、2区域でのみ営巣が確認されており、そのうちの1カ所、とくに使用履歴が最新の地域が全域伐採されてしまうのは、あまりに希少猛禽類への配慮が足りない。 ・事業予定地の比較的周縁部に位置することからも、最終処分場と外部との間の緩衝帯としての役割を持たせる意味も含め、現況のまま保存してほしい。	・事業予定地周辺にも営巣可能な環境があることを確認しており、本事業予定地のオオタカは、よく営巣木を変えるため、事業開始までの間も観察を継続し、事業開始時の状況に応じ、貯留施設設計での対応や、より適した保全方法を検討したいと考えている。